

令和4年春期 六浦西地区推進連絡会

1 日時

令和4年6月24日（木） 19:00 ～ 20:15

2 場所

六浦地区センター 多目的室

3 参加者

（地域側）社協定例会メンバー 18名

（支援チーム、その他行政側）

区役所 2名

区社会福祉協議会、地域ケアプラザ 3名

計 25名

4 内容

（1）開会のあいさつ

（六浦西地区社会福祉協議会・町内会連合会 会長）

（2）地区支援チームから挨拶

（3）出席者自己紹介

（4）第4期金沢ささえあいプランについて

ア 第4期 区計画について

イ 第4期 地区別計画について

（5）意見交換

■コロナ禍での活動を振り返って

コロナ禍で、既存の場や方法では活動が継続できなかつたところが多かつた。方法を変更して実施したところもあつたが、多くの活動はストップせざるをえなかつたことから、活動を再開するにあたって、役員の引継ぎがうまくされず
に交代しているなど「知識・役割の継承」への危機感が寄せられた。

また、イベントや活動が停止していたことで、大人も子どもも経験が不足する
という大きなダメージがあつたことが認識として共有された。

活動を再開していくことは、経験という財産を復活していくことであり、大切

な役割があることを共通認識としてすすめていく必要性が語られた。

■新たな日常での活動の課題

ステイホームが常態化してきたところから、行事再開への期待・ニーズが地域の方々にある一方、一度ステイホームになったところから新たに出かけることを億劫に思うお年寄りも出てきていることへの危惧が寄せられた。

まずは活動している運営側の人間が自ら活動を楽しみ、その楽しさが参加者に伝わっていくことを大切にし、取り組んでいこうといった提案があった。

また、活動同士の連携を大切にし、民生委員の方などが高齢者へ訪問される時に、気になる活動への参加を促すなど、地域の連携を強めて、前向きに解決していこうとの意気込みが語られた。

そのような場として、町内会をこえた地区社協のつながりは大事であるとの認識が共有された。

■活動の担い手の継承と発掘～“きっかけづくり”

役員の子手や担い手の不足について、各団体の共通の課題として語られた。各役員の子年延長の必要性について、現役世代の子年延長と連動し、変えていくべきとの強い意見が多かった。

また、地域でできることとして、“きっかけ”づくりがキーワードとして語られた。

「子供会の子活動を町内会が支援することで、顔見知りをつくっていく」

「犬の散歩で顔見知りになる」

「こどもや孫が世話になったことから担い手につながっていく」

といった、様々な“きっかけ”を大切にし、顔見知りをつくっていくことが、活動の活性化に向けた担い手確保に重要、との意見が相次いだ。

新たな人が参加しやすくなるきっかけづくりを大切にし、つながりづくりにつとめていこうとの思いをひとつにし、意見交換を終了した。

(6) 閉会の子あいさつ

(六浦西地区社会福祉協議会・町内会連合会 副会長)